

会議録

会議の名称	令和元年度第3回 西東京市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	令和元年11月25日 午後2時から午後3時55分まで
開催場所	エコプラザ西東京（多目的スペース）
出席者	<p>【委員】 山谷委員、楠田委員、福田委員、小早川委員、平山委員、鈴木委員、澤野委員、塚澤委員、一方井委員、根本委員、河上委員、渡部委員、田中委員、砂子委員、岩崎委員</p> <p>【事務局】 萱野部長、山田課長、河合課長補佐兼ごみ減量係長、本多清掃係長、星川主査、岩崎技能長、池内技能主任</p>
議題	<p>(1) 資源物戸別収集の経過報告</p> <p>(2) 廃棄物減量等推進員の役割・活用の検討</p> <p>(3) 事業系ごみの対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業系ごみ対策の検討</li> <li>・事業者向け廃棄物処理の手引き（素案）</li> </ul> <p>(4) その他</p>
会議資料の名称	<p>資料1 資源物戸別収集の経過報告</p> <p>資料2 西東京市廃棄物減量等推進員の今後の方向性（修正案）</p> <p>資料3 事業系ごみの対策について</p> <p>資料4 事業者向け廃棄物処理の手引き（素案）</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>（発言内容等）</p> <p>1 会長から開会の挨拶</p> <p>2 議題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 資源物戸別収集の経過報告</li> <li>(2) 廃棄物減量等推進員の役割・活用の検討</li> <li>(3) 事業系ごみの対策について             <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業系ごみ対策の検討</li> <li>・事業者向け廃棄物処理の手引き（素案）</li> </ul> </li> <li>(4) その他</li> </ul>	

(委員からの主な意見等)

#### 議題 (1) 資源物戸別収集の経過報告

委員：資源物の戸別収集を始めて収集量が減少していますが、市にとって良いことですか。他の場所へ減少した量が行ったということですか。

事務局：資源物の戸別収集は、分別や資源化が図られるという目的がありますが、各品目の排出量が減ったということは、不法投棄が減少したり分別が徹底されたのではと思われま

会長：分別が良くなったことと、容器がペットボトルに変わってきているのかもしれませんが。10月が例年になく暑かったため、ペット飲料の消費が増えたかもしれません。紙については、10年以上新聞紙などが減っています。

事務局：資源物の推移ですが、1日あたりに換算すると古紙が減っていますが、可燃ごみが増えている訳ではありません。対9月、10月を比較すると可燃ごみも減っています。古紙が可燃ごみに流れているということはありません。ペットボトルの対前年度同月比も、1日あたりにすると減っています。不特定多数が出している集積所収集から戸別収集になり、皆様の減量や分別が進み、きれいに出されているものと考えています。

委員：収集事業者の委員として、前回の会議で収集についての課題等をお話ししましたが、市民からのご意見は今現在ほとんどない状況です。今後も市民周知が必要であると考えています。

委員：古紙がかなり減っていますが、収集している実感としてどうですか。

委員：実感として減っています。新聞をとっている世帯が減り、雑誌は、本をタブレット端末などで読む人が増えていると思います。段ボールや雑紙が、見た目に増えているように感じますが、重量で見ると減っています。

委員：ネット通販等で届いた段ボールが、場所ととるので置いておくのが厳しいという話も聞いています。

委員：紙の量も減っていて、売り払い価格もこの1年で急激に下がり、商売をする業者にとっては、厳しい状況になっています。中国で受け入れられなくなったことが原因で、このまま厳しい状況が続くと考えられます。

会長：経済が活発にならないことも影響するかもしれません。

#### 議題 (2) 廃棄物減量等推進員の役割・活用の検討

委員：市として、どのごみを減らすのが目的ですか。

事務局：すべてを減らしたいですが、特に生ごみは水分を含んで重量が重くなるため、水切りは効果的だと考えています。

委員：可燃ごみや不燃ごみの中で、まだリサイクルできるものがあれば、今後の広報等で周知したら良いのではと思います。粗大ごみの出し方で、いつどのように出したら良いのか、具体的なハウツーがあると出しやすいかと思います。また、分別するために、不燃ごみはどのようなものを事例として知りたいです。

会長：市として、資源化のために金属類や小型家電などを設けていますので、不燃ごみとして残っているものは、少なくなってきています。

事務局：粗大ごみについては、以前は数日間で収集していたものを、収集日を指定するようにしました。受付センターに申し込みをしていただければ良いですが、季節的には、年度変わりの3・4月、夏休みの8月、年末の12月は、引っ越しの時期でもあり、申し込みが大変混み合います。その繁忙期を除いた水・木・金曜日が、申し込みがしやすいと思います。

委員：ごみを少なくできる方法があれば、具体的に教えてほしいです。

事務局：例えば、麦茶の紙パックを絞って捨てるだけでも、かなり水分が減り、ごみの減量になります。排水溝のネットに残ったものを乾かして出したり、可燃ごみの中にある小さい紙でも、分別して雑紙に出せば減量になります。食品ロスの削減として、余計なものを買わない、買ったものを食べきることも大切です。過去に市で組成分析を行いました。まだ可燃ごみに雑紙の混入があります。

会長：部屋の中に雑紙バッグを置いて、そこに雑紙を分けるようにすれば、相当な可燃ごみの減量につながると思います。

委員：可燃ごみの水分の話がありましたが、焼却施設で水分が多いごみは、焼却炉の燃焼効率が悪くなるという側面もあり、なるべく水切りをした方が良いと思います。

会長：焼却施設では、焼却による発電もしていますので、電力の購入を抑える意味でも水切りは必要です。ごみの減量方法は、イベントやエコ羅針盤などで情報発信してほしいと思います。

委員：推進員の活動に「ごみ出しの相談」とありますが、自分の地域の推進員が誰なのかは、周知されていますか。

会長：ここでは、相談というよりもアドバイスをすることになると思います。何でも答えられるものではありませんので、分かる範囲で助言してもらえれば良いと思います。

### 議題(3) 事業系ごみの対策について

- ・事業系ごみ対策の検討
- ・事業者向け廃棄物処理の手引き（素案）

委員：一般廃棄物処理基本計画の目標に対して事業系ごみの削減が進んでいないのは、本日の資料にある事業系ごみの手引きが作成されていなかったことが原因にあります。

か。

会 長：家庭ごみは減少していますが、事業系ごみについては増えている状況にあります。経済の緩やかな回復が影響にあると思いますが、これをどう減らしていくのかということで、手引きを活用して指導を充実させていくということです。西東京市は、人口が増えているので、事業活動に影響し、事業系ごみが増えていることもあると思います。

委 員：廃棄物の減量及び再利用に関する計画書の提出義務がある事業者について、具体的に分かれば教えてほしいです。

事務局：スーパーや企業、高齢者施設などになります。

委 員：市の様子が変わってきていますが、報告書の様式等は今のところ見直しをする予定はないですか。

事務局：報告書の他に添付資料として、ごみの種類ごとにどのようなルートでどうリサイクルしているかを提出してもらっています。

委 員：事業系一般廃棄物処理業の許可業者一覧で、処理金額は統一されていますか。遠い地域の業者がありますので、他の業者と同じごみを処理しているのかも知りたいです。

会 長：業者一覧の中に、例えば食品リサイクルの業者なども含まれていますが、食品リサイクルをしたいが、西東京市内に処理場がない場合もあるため、他の自治体の業者が収集運搬をしている状況があります。

委 員：事業系ごみは、飲食店や福祉施設などで出てくるごみの種類が違いますが、手引きは今回の1冊ですか。業種に応じた専用のものも追加で配布するのですか。

事務局：初めは、統一した手引きを活用したいと考えていますが、業種専用の手引きが必要なのか、また、配布方法も含めてこの審議会でご意見をいただきたいと考えています。

委 員：この手引きでは、大枠過ぎて具体的なことがイメージしにくいと感じました。

会 長：大企業も小さな飲食店もあり、業種も多様な中で工夫をして出さなければならないですが、家庭ごみは市の責任で処理しますが、事業系ごみは法律で自ら処理する責任があります。しかし、少量の事業系ごみを家庭ごみに混入して出している事実も調査によるとあります。埼玉県の一部では、少量のごみであれば、自治体に届出をして認められた場合は、家庭ごみに入れて出せるところもあります。また、自治体で事業系ごみの専用袋を作成し、家庭ごみより高い手数料を取って収集しているところもあります。市として、事業者が適正にごみを排出できるような方法を検討していただければと思います。

委 員：どのようにごみ総量を抑えていくかの対応として、有料化の問題や排出量の多い業者に最大限の努力をしてもらい、それらの業者に自治体がどれだけアクションを起

こしているかが重要になります。大規模事業者へ市の担当者が指導していますか。

事務局：平成27年度に2社の聴き取り調査をしましたが、忙しくて対応してもらえないこともありました。今後、必要な指導等をしていきたいと考えています。

会 長：事業者も忙しくて対応してくれないこともあります。事業者からの報告書をチェックしていただきたいと思います。

委 員：缶やペットボトルをスーパー等で回収したものは、どう処理していますか。

事務局：各事業者で処理をしています。

会 長：この手引きをじっくり読んでもらい、これをもとに指導を充実してもらいたいと思います。

#### 議題(4) その他

次回の日程について

令和2年1月下旬を予定（後日各委員と調整）